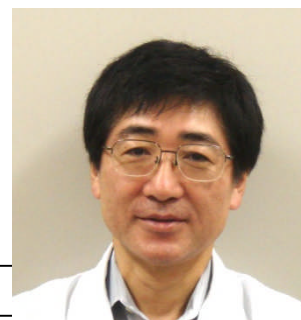


エビデンスに基づく漢方治療を中心に がん患者さんの悩みをサポートする



銀座東京クリニック(東京都中央区)

2002年に両国で開業後、翌年8月に現在の場所へ移転した銀座東京クリニック。院長の福田一典医師がそれまでに辿ってきたがん研究の経歴は、大変ユニークなものだ。

熊本大学医学部を卒業後、同大学第一外科にて消化器疾患、おもにがんの外科治療に従事したのがそのスタートだった。いくつかの市立病院や大学病院に勤務後、アメリカのバーモント大学医学部生化学教室に3年間留学もし、「がんの分子生物学的研究」に従事した。

「私のがん治療のベースになっているのは西洋医学の標準治療です。その経験のなかで、わりと早い時期から、標準治療のほかにも身体の治癒力や体力を高める手段や自然療法などの必要性を感じていました」という福田先生。1992年からは、漢方薬の研究で知られる株式会社ツムラの中央研究所部長として、漢方薬の薬理研究に携わった。

次に、国立がんセンター研究所がん予防研究部にて、「がん予防のメカニズム」と「漢方薬によるがん予防」を研究。1998年4月からは、岐阜大学医学部東洋医学講座の助教授として、東洋医学の臨床・研究・教育に4年間従事した。

「がんの研究と診療に関して、たいていのことは経験してきましたが、これまで経験してきたことをすべて一人でやることはできませんので、自由診療による漢方と、がん代替療法を自分の役割として専門に行うことにしました。保険診療で行われるがんの標準治療については、長年携わってきてよくわかっていますので、そうした通常の医療と協調的に、患者さんを支援することができると考えています。実際、患者さんは、抗がん剤治療を行いながら、ここにいらっしゃることがあります。また、標準治療が終わったあとで、再発予防として漢方の煎じ薬を継続使用される方もいます」。

最初の外科医時代、福田院長が大学病院で接した患者さんの多くはがん患者だった。死因の3分の1をがんが占めていることから推測してみても、外科で接するのはがんの切除術を受ける患者がほとんどだ。そして、消化器の切除術後は、食べるのが難しくなり、痩せてしまい、体力をなかなか回復できない患者が多いという。「治療技術などは進歩しているかもしれないが、がんという病気はそう生易しいものではない」というのが福田院長の実感でもある。

「食欲や体力が落ちている患者に対処する手段は西洋医学には乏しいので、自然と自分で勉強することになりました。そのうち、だんだんと漢方への関心を高めていったことが今に至っています」。

銀座東京クリニックでは、患者さんの訴える体調に合わせて多種類の生薬を選んで組み合わせ、処方しており、希望者には煎じ液をレトルトパックにして渡している。また、漢方の生薬だけに限定することはなく、西洋ハーブであっても役立つものは積極的に使い、そのほかにも、未認可医薬品、保険適応外使用医薬品、サプリメント、健康食品、注射薬などを幅広く取り扱っている。

銀座東京クリニックで治療に使用する漢方薬・医薬品・サプリメント

漢方薬	オーダーメイドの抗がん漢方薬、半枝蓮、アシュワガンダ
未認可医薬品	サリドマイド、アルテスネイト、ノスカピン、ジクロロ酢酸ナトリウム、低容量ナルトレキソン
保険適応外使用 医薬品	COX-2 阻害剤(セレブレックス、セレコックス)、シメチジン、セファランチン
サプリメント・健康 食品	αリポ酸&セレン、メラトニン、アセチル-L-カルニチン、ジンドリルメタン、キサントン-40、アルテミックス、DHA/EPA、IP-6&イノシトル、田七人参+ウコン、ミサトールデリシャス、スーパーマコ、シクロカプセル化コエンザイムQ10、アルベックス、ピフロ、シロキクラゲなど
注射薬	ウクライン、高濃度ビタミンC点滴、水素水点滴、プラセンタ

■銀座東京クリニック

〒104-0061 東京都中央区銀座 5-14-9

TEL : 03-5550-3552

FAX : 03-3541-7577

ホームページ <http://www.1ginzaclinic.com>